

⑪ 大井戸

所在地: 水戸市上国井町 湧水量: 多 飲用: X

上国井町鹿嶋神社の西側にあり、上国井町「一里塚」バス停から東に300m(道なりに500mほど)のところにある。
湧水地には3つのコンクリート製の円筒があり、それぞれから水が豊富に湧き出している。また、円筒の外でも水が湧き出している様子が多く見られる。
この湧水は、古代より飲用や農業用水に利用されていたようだが、近くに検査証などはなかった。
周辺の池や小川には、ほたるの幼虫のえさになるカワニナが多数見られ、地域ぐるみで「大井戸ほたるの里」に取り組んでいる。

⑩ 渡里湧水群

所在地: 水戸市渡里町 湧水量: 多 飲用: X

国道123号線を茨城大学から北に2kmほど進むと渡里台地の端に出る。このがけ下を流れる田野川の南岸にある複数の湧水を渡里湧水群と呼んでいる。国道が川を渡る手前に左折する道があるが、作業用道路のため一般車は入れない。道ばたに湧水地の案内図がある。
国道西側のがけ下にある「出水」と呼ばれる湧水は、木の枠から湧き出している。また、国道下のトンネルをくぐって東に行くと「坂下の泉」と呼ばれる湧水があり、竹の樋から水が流れている。付近は、ほたるの生息地として保護されている。他にも沢が二つとも見られ、自然豊かである。
近くには国指定の遺跡や縄文遺跡など歴史的遺産も多く、湧水とともに保存活動が行われている。

⑨ 神明水

所在地: 水戸市八幡町 湧水量: 中 飲用: X

水戸八幡宮東側の太郎坂を下りると左側に神明宮という小さなお宮があり、その下側にある湧水で池になっている。
神明宮は昔、八幡宮のみそぎ所で、神前で仕える際にこの湧き水で身を清めたという。
10年ほど前までは近所の人たちが野菜や農機具を洗っていたという。現在は小さな公園として整備されていて、大きな鯉が数匹泳いでいた。

⑧ 玉龍泉

所在地: 水戸市見川 湧水量: 少 飲用: X

偕楽園公園内の桜山駐車場のわきにある自然の湧水を利用した噴水。徳川斉昭公が、偕楽園や桜山の名勝に合わせてつくったもので、水源から地下に管を通して直径約4.5mの池の中央から噴水が出るようになっている。
この噴水は夏の暑い期間には人々に涼を与え、田畑のかんがいにも利用されていた。
今の噴水の高さは1mほどだが、昔はもっと高かった。池には大きな鯉が数匹泳いでいる。

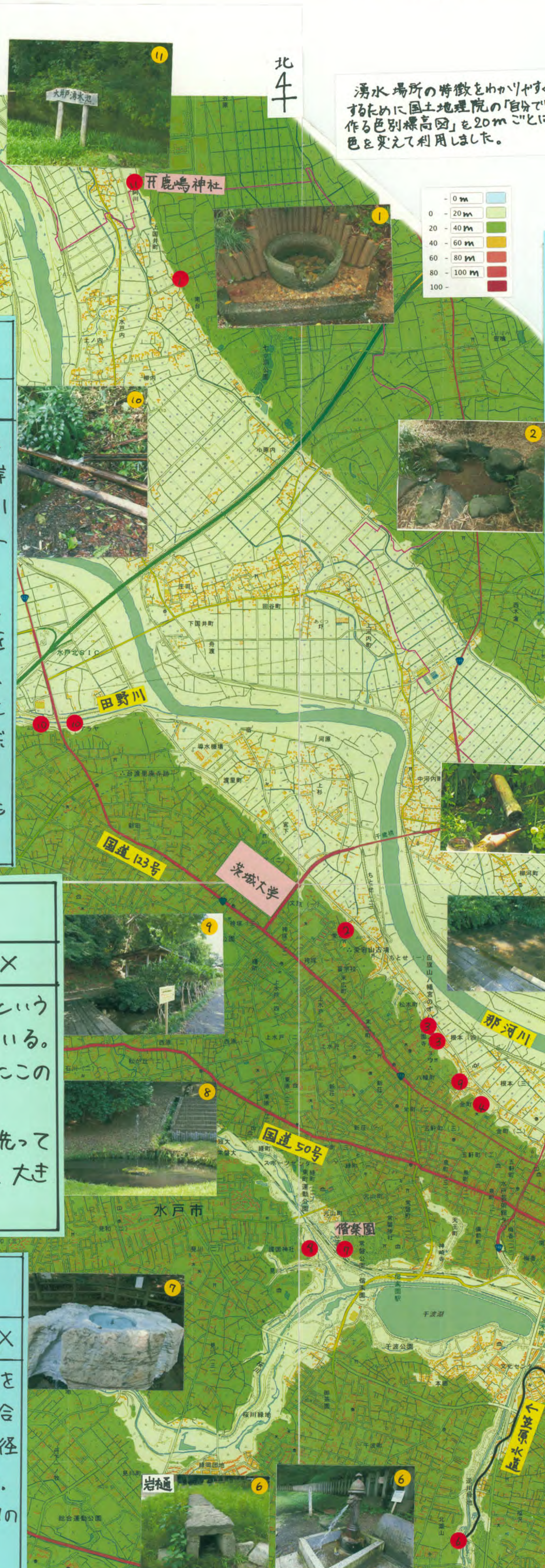
⑦ 吐玉泉

所在地: 水戸市常磐 湧水量: 多 飲用: △

偕楽園内にある湧き水。好文亭の表門から千波湖への坂道の途中にあり、石の井筒から湧き出している。徳川斉昭公は偕楽園をつくるにあたり、周辺から湧き水を集めて井筒から噴出する仕組みをつくらせた。井筒には常陸太田市真弓山産の白い大理石(寒水石)を使用している。泉の水は、好文亭で茶の湯にも使われたという。
泉の近くには飲用水の基準に適合しているという検査証と「飲用水としては提供していません。」という立て札があった。現在は偕楽園内の見所の一つとなっている。

水戸湧水マップ

茨城大学教育学部附属小学校6年
佐々木 あすか 國島 ゆうほ



湧水場所の特徴をわかりやすくするために国土地理院の「自分で作る色別標高図」を20mごとに色を変えて利用しました。

① 軍民坂湧水

所在地: 水戸市上国井町 湧水量: 中 飲用: O

上国井町公民館から東に約200m進んだ軍民坂の中ほど左側にある。(上国井バス停からは東に500mほど)
古いコンクリートで丸く囲われた中から水が豊富に湧き出て、側溝に流れ落ちている。近くには飲用水の基準に適合しているという検査証がはられ、ひしゃくがつかっている。水を飲んだり、くむために立ち寄る人が見られ、今も地元で大切に利用されている。東日本大震災のときには、水を求めて行列ができたという。

② 曝井

所在地: 水戸市愛宕町 湧水量: 少 飲用: X

愛宕山古墳西側の溝坂の途中にある。約1m四方の泉の中央から水がわき出している。近くに小さな池ができていて、現存する最古の歌集「万葉集」の巻九に三葉の那賀に向へる曝井の絶えず通はむ彼所に妻もが」とよまれている。昔は水がきれいでも湧水量も多く、布を洗ってさらしていたそうだ。
現在では湧水は飲用や生活用水としては利用されていない。まわりは「万葉曝井の森」として整備され、水戸市唯一の万葉の遺跡として観光名所の一つになっている。

③ お茶の水湧水群

所在地: 水戸市八幡町 湧水量: 少 飲用: X

茨城交通末広町2丁目バス停から茨城高校を目指して進み、七曲坂を下りたあたりに広がる湧水群。弓道場下湧水、七曲坂湧水、お茶の水湧水、祇園寺下湧水などがある。
お茶の水湧水は竹のパイプから出た水が、ししおどしに注いでいる。近くの湧水は小さな池になっているところが多く、ザリガニがたくさんいた。
お茶の水湧水は、江戸時代に水戸藩の役人が領内を見回り、馬口労働(今の末広町)あたりで休憩したとき、この湧水でお茶をたて、もてなしたことからこの名前が呼ばれるようになった。現在は農業用に使われている。

④ 洗心泉

所在地: 水戸市金町 湧水量: 中 飲用: X

水戸市五軒小学校校舎北側の運動場の下りる1x9階段下のわきにあり、がけ下2カ所から湧き出して、すぐ前の太郎池にそそいでいる。
以前ここにあった茨城県女子師範学校や水戸第二高等女学校の歴史を見守り続けてきた泉である。
太郎池の水は下流の次郎池に引かれ水生植物やザリガニ二等が育てられ体験学習に利用されている。小学校校内外7つで、見学は許可を得ておこなった。

⑥ 笠原水源

所在地: 水戸市笠原町 湧水量: 多 飲用: O

茨城県メディカルセンターの北側にある細い道から、逆川にそって200mほど北に進んだあたり、南北に長い逆川緑地公園の南側にある。
笠原水源は、徳川光圀公が1663年に完成させた日本で18番目の水道「笠原水道」の水源である。笠原水道は、この水源から岩樋を使って、当時水質の悪かった下町(今の下市地区)まで作られた総延長10kmの上水道である。近くの広場には、当時の岩樋の復元模型がある。
現在水源池にある竜頭権から出る水は、この湧き水に塩素を加えた水だが、水道水よりもおいしいと言われ、くみにくる人が絶えない。水戸市水道部で発売している「水戸の名水黄門さん」は、この水を使用している。

⑤ 小沢の滝

所在地: 水戸市北見町 湧水量: 中 飲用: X

水戸東武館から西側に約250mのところにある狭い路地を入り、通称ひぐらし坂と呼ばれる階段を下りたところにある。東武館北側のがけ下であり、東武館の敷地内にあるが、小さな公園として整備され誰でも入ることができる。
緑豊かな斜面緑地から湧いた水が小さな滝となり流れている。水は周囲10mほどの池にたまっていて、鯉やヒゴイがいる。
江戸時代までは「田見小路井水」と呼ばれていたが、東武館(もとは創設者小沢寅吉の邸宅)が創設された明治以降に小沢の滝と呼ばれるようになった。